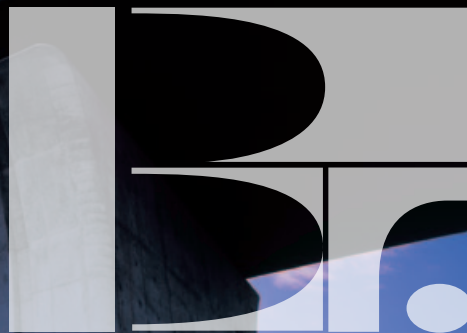


Br. Holdings Report

株式会社ビーアールホールディングスは
おかげさまで3月29日
東証第一部に指定されました。



第14期 年次報告書 平成27年4月1日～平成28年3月31日

 株式会社 ビーアールホールディングス

証券コード：1726

「人と人」 「技術と技術」の橋渡し

ビーアールホールディングスグループは、異なる事業特性・成長ステージを擁するグループ企業で構成された企業群を目指します。

そのグループ全体をまとめ、企業価値の最大化に努め、資本効率のさらなる向上を目指すのが、ホールディング・カンパニーとしての当社の役割です。

欧州統一通貨ユーロ紙幣の裏面は、全てのコミュニケーションを象徴する橋のイメージのデザインで統一されています。

株式会社ビーアールホールディングスの経営理念も同じです。

これからも「人と人」「技術と技術」の橋渡しをすることに取り組んでまいります。

株主の皆様には平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当社の第14期(平成27年4月1日から平成28年3月31日まで)が終了しましたので、当社グループの業績及び事業活動をご報告させていただきます。

当社グループの第14期の業績は、建設事業において、当期期首の建設業主要2社の手持工事が16,968百万円(前年度期首手持17,809百万円)と4.7%ほどの減少で始まり、国土交通省は発注が昨年さらに12.2%減と低水準で推移しましたが、当社グループの受注はWTO案件4件を含み、対前年度比で98.8%増とほぼ倍増し、建設業主要2社の受注額は22,014百万円(前年度受注16,934百万円)と30.0%増加し、受注時粗利益率も1.4%ほど改善した為、当期に一旦落ち込んだ増収増益基調を来期以降は回復できる可能性が出て来ました。また、今後、新規の橋梁建設は徐々に減少していきませんが、日本高速道路各社の大規模更新・大規模修繕計画が2年目に入り発注量が対前年比で大幅に増加するなど、橋梁の補修・補強分野は今後とも発注量が増加していきます。子会社の極東興和(株)が独自技術として、市場で比較優位を保つマイク



ロパイル工法、K-LIP亜硝酸リチウム工法などは粗利率も高く、今後の成長が期待できます。また、鉄道分野では7年目となる東海道新幹線の枕木交換、北海道、北陸新幹線などの延伸に加え、リニア新幹線の着工が認可された為、同様に発注量の増加が期待されています。

当社グループは、復旧・復興事業や、橋梁の長寿命化修繕計画に真摯に取り組み受注高は25,277百万円(前年度受注20,321百万円)と24.4%の増加となりました。しかし、第14期の売上高は20,816百万円(前年度売上高20,629百万円)と0.9%の微増に止まり、営業利益は508百万円(前年度営業利益812百万円)と37.5%減、経常利益は455百万円(前年度経常利益766百万円)と40.6%の大幅な減少となりました。親会社株主に帰属する当期純利益は、連結子会社の繰延税金資産の見積可能期間を変更した結果、繰延税金資産が増加し、472百万円(前年度親会社株主に帰属する当期純利益468百万円)と0.7%の微増となりました。この営業利益及び経常利益の大幅な減少の為、親会社株主に帰属する当期純利益は微増でしたが、1株当たり株主配当は期末2円(年間4円)と据え置きとさせていただきます。

当社グループは長期的な人材育成に取り組んでおり、今期も広島県のイノベーション人材育成事業補助金を受け国内で博士課程に職員を派遣しております。また、各大学や研究機関との共同研究により、マイクロパイル工法やK-LIP亜硝酸リチウム工法など、徐々に成果をあげつつあります。

当事業年度は期首手持が比較的少ないスタートでしたが、期中の受注は順調に推移してきましたので、期末の手持工事は26.0%増加し業績も順調に回復してきました。その結果、本年3月29日に、当社株式は、東京証券取引所市場第二部より同市場第一部銘柄に指定されましたことをお知らせいたします。これもひとえに、株主の皆様、お取引先様をはじめ、関係者の皆様からのご支援の賜物と心より感謝申し上げます。

当社は、「人與人」「技術と技術」の橋渡しの経営理念のもと、「技術で社会へ貢献する」企業グループとして、これからも、企業価値の最大化に努め、資本効率のさらなる向上を目指し、より多くの皆様のご期待にお応えできるよう邁進してまいりますので、引き続きご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成28年6月



代表取締役社長

藤田 公康

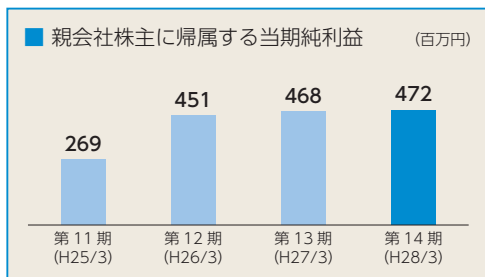
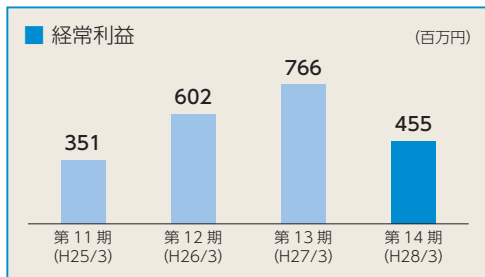
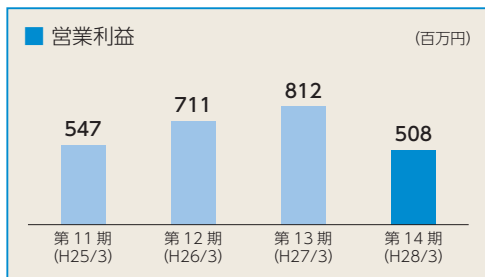
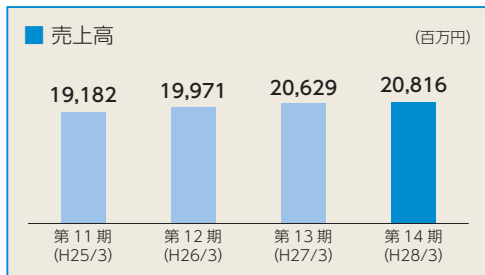
Profile

(株)ビーアールホールディングス
代表取締役社長 藤田 公康 (昭和25年9月9日生)

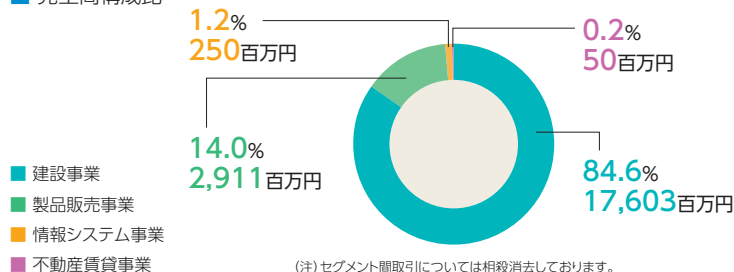
昭和49年 慶応義塾大学法学部 政治学科卒業
昭和51年 ハートフォード大学 経営学部修士課程卒業(MBA)
昭和51年 大塚製薬(株)入社 企画課長
昭和56年 極東工業(株)(現極東興和(株))入社 取締役社長室長
昭和60年 同社代表取締役社長
平成5年 同社代表取締役会長
平成14年 当社取締役
平成17年 当社代表取締役社長(現任)

<兼職>

昭和63年 (社)広島青年会議所 理事長
平成2年 (社)日本青年会議所 会頭
平成27年 極東興和(株) 代表取締役社長



■ 売上高構成比



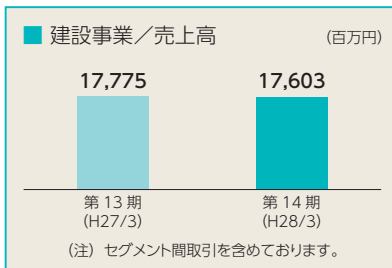
建設事業

〈橋りょう土木工事の設計・施工〉

売上高 ▶ 176億3百万円 前年同期比 ▶ 1.0%減



建設事業におきましては、高速道路会社を中心とした大型工事の受注が好調で、当連結会計年度の受注高は220億14百万円(前年同期比30.0%増)となりました。一方、売上高につきましては、当期受注工事において大型工事の進捗率が伸びず、176億3百万円(前年同期比1.0%減)となり、セグメント利益につきましては、前期から繰越した相対的に粗利率の低い工事の売上高全体に占める割合が大きくなったことにより、10億25百万円(前年同期比21.5%減)となりました。



製品販売事業

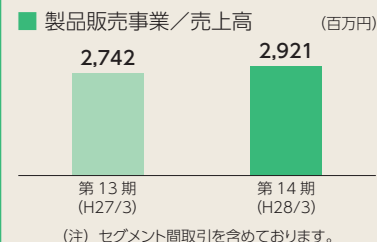
〈コンクリート二次製品の販売〉

売上高 ▶ 29億21百万円

前年同期比 ▶ 6.5%増



製品販売事業におきましては、マクラ及び耐震補強用建築部材等、主要顧客の需要が減少し、当連結会計年度の受注高は27億29百万円(前年同期比6.4%減)となりました。一方、前期からの繰越製品の出荷が進み、売上高は29億21百万円(前年同期比6.5%増)、セグメント利益は2億21百万円(前年同期比27.8%増)となりました。



情報システム事業

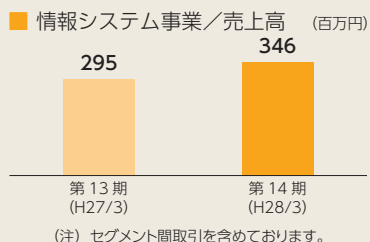
〈システム開発・販売〉

売上高 ▶ 3億46百万円

前年同期比 ▶ 17.2%増



情報システム事業におきましては、アベノミクスの波及効果も表れ、需要も増えてきておりますが、企業収益や設備投資の格差、都市部と地方の格差、慢性的なSE(システムエンジニア)不足などまだ模様で不透明な状況が続いております。当連結会計年度の売上高は3億46百万円(前年同期比17.2%増)、セグメント利益は14百万円(前年同期比13百万円増)となりました。



不動産賃貸事業

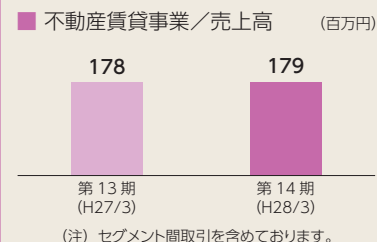
〈当社ビルのマンション賃貸運営等〉

売上高 ▶ 1億79百万円

前年同期比 ▶ 0.7%増



不動産事業におきましては、当社保有の極東ビルディングにおいて、事務所賃貸ならびに一般店舗・住宅の賃貸管理のほか、グループ会社の拠点として、当社が一括して賃借した事務所を各グループ会社に賃貸しており、安定した売上高を計上しております。当連結会計年度の売上高は1億79百万円(前年同期比0.7%増)、セグメント利益は1億22百万円(前年同期比6.6%増)となりました。



Topics

1

国道2号恵下谷ランプ北橋外耐震補強補修工事〈極東興和株式会社〉

略称：恵下谷ランプ北橋外耐震補強



恵下谷ランプ北橋は、広島県三原市の新幹線三原駅から北方3kmにあり、国道2号と県道25号との立体交差を形成する橋です。

この度、国土交通省福山河川国道事務所から本橋の耐震補強補修工事を受注し落橋防止装置の取付けや橋脚の巻き立て補強を行いました。本橋は、非常に高低差のある立体交差橋なので複雑な構造をしており、交通量も多く難工事となりましたが、無事故・無災害で完了し、発注者からも高い評価を受けました。

Topics

2

新名神高速道路 楊梅山高架橋(PC上部工)工事〈極東興和株式会社〉

略称：楊梅山高架橋

楊梅山高架橋は、名古屋市を起点として神戸市に至る174kmの新名神高速道路の一部として大阪府高槻市に位置する橋梁です。本工事は、PRC連続箱桁橋を、移動作業車を用いて各橋脚上から順次、張出し架設工法で構築するものです。本橋は、上下線ともに橋長1,100mを超える長大橋で、(仮称)高槻第一ジャンクションの一部を担うことから、橋梁の途中から本線橋とランプ橋に分岐する構造になっています。

A1橋台側の2径間は、支間長が長い(最大支間155.4m)ことから、自重低減のため、箱型のウェブに波型鋼板が採用されています。この区間は、施工のサイクル工程の短縮や、施工の省力化を図れる工法を用いています。

本工事では、暫定形の幅員10.5~24.0m(ランプ部は8.5m)で上部工を施工しますが、将来の完成形(幅員16.0~26.8m、床版幅幅)を見据えて設計をしています。



Topics

3

二級河川須崎川筋茶屋前地区(仮称)新須崎橋上部工ほか工事〈東日本コンクリート株式会社〉

略称：新須崎橋ほか工事

新須崎橋ほか工事は、岩手県大船渡市の大船渡港のすぐ近くの河川に位置し、東日本大震災からの地盤沈下の影響による道路の嵩上げ工事に伴う2橋の架け替え工事です。構造形式は、場所打ちPC単純中空床版橋であり、1橋は橋りょうと橋台も施工しました。

本工事は、河川の中に支保工を組み立てる通年施工であったため、橋台の施工においては、河川内にシートパイルを打ち込み、水を締め切った状態で工事を行いました。掘削時には、地下水や河川水の流入があり、水の排出方法として大型のノッチタンクを2基設置し、泥水を沈下させ河川に水を排出することで水質汚濁防止を図り環境に配慮した施工を行いました。

近隣には住居があることから、騒音・振動の軽減及び作業スペースの確保可能な杭抜き機械のサイレントパイラーを選定し、地域への配慮と2橋同時に施工を行い工程管理をしながら、無事故で工期内に完成しました。



Topics 4 小浜橋耐震補強工事〈極東興和株式会社〉

略称：小浜橋ASR



小浜橋は、佐賀県唐津市の唐津市役所の西方10kmに位置し、国道202号と交差する玉島川に架けられた橋です。目前には玄海国立公園の一部である虹ノ松原が広がり、その先の唐津湾も望めるという絶好のロケーションにあります。

この度、国土交通省佐賀国道事務所から本橋の耐震補強工事の一部が発注され、その中の橋台・橋脚の塩害及びアルカリ骨材反応対策として、当社のリハビリカプセル工法が採用されました。工事は無事完了し、残りの部分も近々発注される予定です。



Topics 5 一般国道397号菅生市橋耐震補強工事〈極東興和株式会社〉

略称：菅生市橋STMP

一般国道397号は、岩手県大船渡市から秋田県横手市を結び、産業振興や救急医療、地域間の交流を支える幹線道路として大きな役割を果たしているほか、災害が発生した場合に優先的に交通の確保を図る緊急輸送道路にも指定されている重要な路線です。東日本大震災の津波の際には、内陸部と沿岸被災地を結ぶ路線として緊急車両等の通行に利用されるなど重要な役割を担っており、岩手県では「復興支援道路」として位置付け、線形改善・拡幅等の整備が重点的に進められております（岩手県HPより）。

菅生市橋は、緊急輸送道路における耐震化が必要な橋梁に指定され、橋脚基礎の補強も含めた耐震補強が行われました。補強対象となる橋脚は傾斜のある狭隘地に立地し、増杭の施工において岩盤層への貫入という地盤制約条件への対応が要求されたため、狭隘地施工や岩盤等の硬質地盤削孔に対応可能なSTマイクロパイル工法が採用されました。



Topics 6 平成26年度交付地改別第2-2号道路改良工事〈極東興和株式会社〉

略称：浜脇跨線橋

浜脇跨線橋は全国的に有名な温泉地として知られている別府市の中心に位置し、別府湾が眺望できる場所での施工でした。本橋が架かる別府狭間線は、別府市と大分市を結ぶ主要地方道で、大分市内の大学病院への緊急輸送路として機能を果たすべく早急な整備が望まれています。また国道10号の災害時及び緊急時における代替道路としての機能を持つ路線としても期待されています。



本工事は、本線橋88m、ランプ橋16.5mの現場打ちにより製作する中空床版橋でしたが現地条件は民家が近接し、また市道も交差しており、第三者の安全・環境の維持に対して配慮をしなければならない施工条件でした。実施工では、第三者災害防止、騒音・振動・飛散防止対策を行うとともに、地元の方々とのコミュニケーションを図り、工程短縮に努めた結果、発注者からも高い評価を受けました。



CSR 震災復興への取り組み

平成28年4月14日に発生した熊本地震により被災されました皆様にごく早くからお見舞い申し上げますとともに、一刻も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。当社グループとしても可能な限り復旧・復興に貢献できるよう努力していく所存です。

平成23年3月11日の東日本大震災の発生から約5年が経過し、復旧・復興工事が急ピッチで進められていますが、未だ多くの地点で震災の傷跡が刻まれています。

当社グループでは、現在も震災復興への取り組みを通じて地域の安全・安心に貢献しており、その取り組みの一例をご紹介します。

長塩谷立神地区海岸災害復旧工事 (東日本コンクリート株式会社)

本工事は、東日本大震災による津波の影響により被災した宮城県石巻市の北東部を流れる北上川河口部の海岸護岸復旧工事です。本工事では、津波から周辺住民の生命・財産等を守るため、堤防高さ約6.4m、延長260mの巨大な盛土を築きました。構造においては「粘り強い構造」とするため、法肩と天端被覆の一体化や、法面にはかみ合わせ型のコンクリートブロックを用いるなど、万が一津波が越流した場合にも、本体構造の不安定化を防止し減災効果のある工夫を施した構造としました。

施工においては台風や爆弾低気圧等の影響を受けましたが、無事完了し発注者からも高い評価を受けました。



施工中1



施工中2



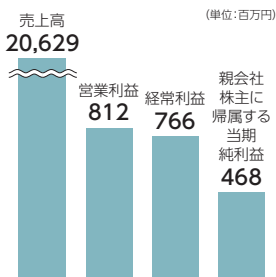
完成全景(起点より)



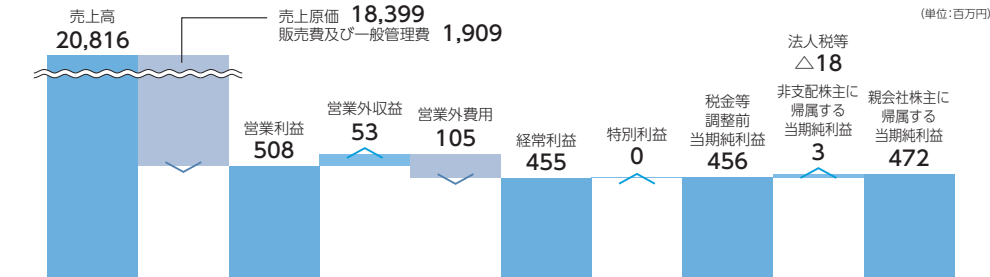
完成全景(終点より)

■ 連結損益計算書

前連結会計年度
平成26年4月1日～平成27年3月31日



当連結会計年度
平成27年4月1日～平成28年3月31日



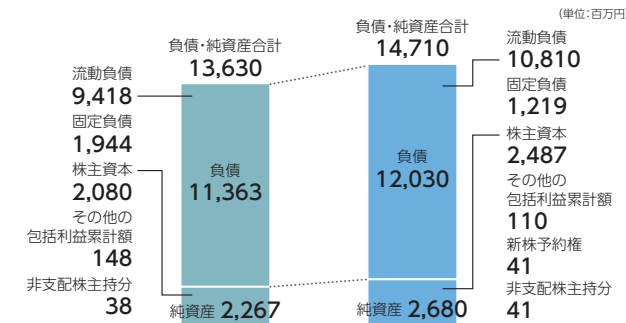
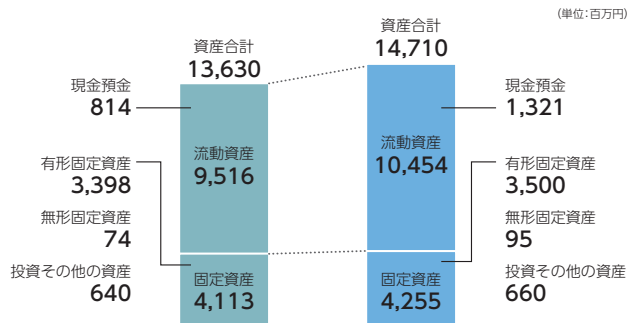
■ 連結貸借対照表

前連結会計年度末
平成27年3月31日現在

当連結会計年度末
平成28年3月31日現在

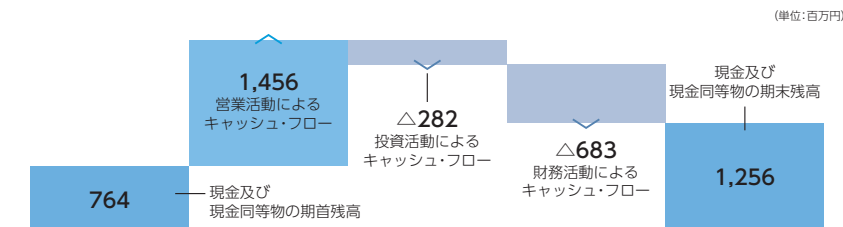
前連結会計年度末
平成27年3月31日現在

当連結会計年度末
平成28年3月31日現在

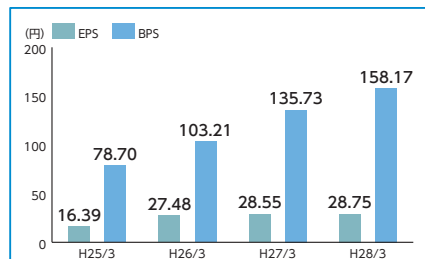


■ 連結キャッシュ・フロー計算書

当連結会計年度
平成27年4月1日～平成28年3月31日



■ 1株当たり
当期純利益(EPS)、純資産(BPS)



(注)当社は、平成26年10月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割を行っております。平成25年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「1株当たり当期純利益」「1株当たり純資産」を算定しております。

■ 会社概要 (平成28年3月31日現在)

| | |
|-------|---|
| 商号 | 株式会社 ビーアールホールディングス Br.Holdings Corporation |
| 設立 | 平成14年9月27日 |
| 本社所在地 | 広島市東区光町二丁目6番31号 |
| 電話 | 082-261-2860(代表) |
| 資本金 | 25億円 |
| 決算期 | 3月31日 |
| 従業員数 | 11名(連結482名) |

■ 代表者及び役員 (平成28年6月24日現在)

| | |
|-----------|-------|
| 代表取締役社長 | 藤田 公康 |
| 取締役 | 土屋 英治 |
| 取締役 | 多賀 邦行 |
| 取締役 | 山根 隆志 |
| 取締役 | 山縣 修 |
| 取締役 | 石井 一生 |
| 取締役 | 天津 武史 |
| 常勤監査等委員 | 藤並 信幸 |
| 監査等委員(社外) | 小田 清和 |
| 監査等委員(社外) | 佐上 芳春 |

■ グループの概況 (平成28年3月31日現在)

極東興和株式会社

本社所在地/広島市
事業内容/ PC構造物の設計・施工
PC及びRC製品の設計・製造・販売等
コンクリート構造物の診断・補修・補強等

キョクトウ高宮株式会社

本社所在地/広島市
事業内容/ PC製品及びコンクリート二次製品の
設計・製造・販売・施工等

東日本コンクリート株式会社

本社所在地/仙台市
事業内容/ PC構造物の設計・施工
PC及びRC製品の設計・製造・販売等
コンクリート構造物の診断・補修・補強等



豊工業株式会社

本社所在地/大分市
事業内容/ PC及びコンクリート二次製品の製造・販売等

ケイ・エヌ情報システム株式会社

本社所在地/広島市
事業内容/ ソフトウェアの設計・開発及び販売等

株式の状況 (平成28年3月31日現在)

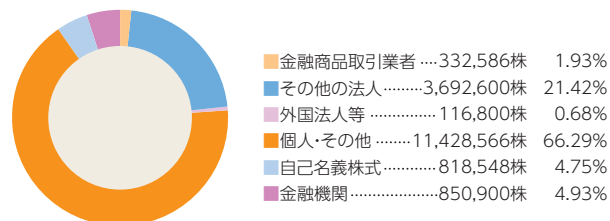
発行可能株式総数……………60,000,000株
 発行済株式の総数……………17,240,000株
 株主数……………11,874名

大株主 (上位11名)

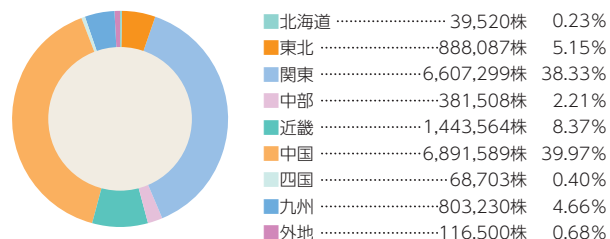
| 株主名 | 持株数 | 持株比率 |
|---------------------|------------|-----------|
| トウショウ産業株式会社 | 2,400 (千株) | 14.62 (%) |
| 藤田公康 | 1,347 | 8.21 |
| ビーアールグループ社員持株会 | 744 | 4.53 |
| ビーアールグループ取引先持株会大阪支部 | 519 | 3.16 |
| 広成建設株式会社 | 494 | 3.01 |
| ビーアールグループ取引先持株会広島支部 | 464 | 2.83 |
| 長谷部正和 | 453 | 2.76 |
| 株式会社三菱東京UFJ銀行 | 400 | 2.44 |
| 藤田衛成 | 372 | 2.27 |
| 遠藤祐子 | 370 | 2.25 |
| 藤田雄山 | 370 | 2.25 |

(注)持株比率は自己株式(818千株)を控除して計算しております。

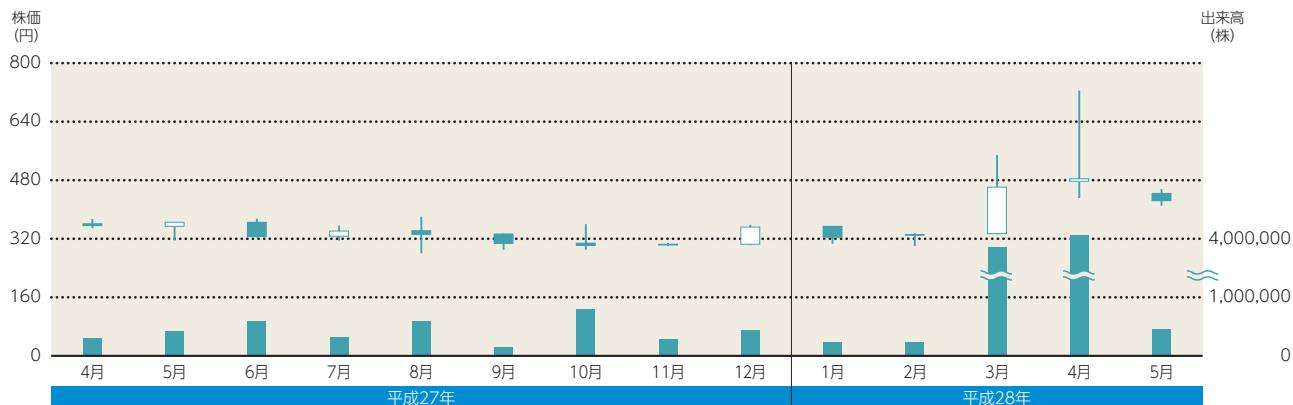
所有者別株式分布状況



地域別株式分布状況



株価の推移



| | |
|--------------|--|
| 事業年度 | 4月1日～翌年3月31日 |
| 期末配当金受領株主確定日 | 3月31日 |
| 中間配当金受領株主確定日 | 9月30日 |
| 定時株主総会 | 毎年6月 |
| 株主名簿管理人 | 三菱UFJ信託銀行株式会社 |
| 特別口座の口座管理機関 | 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 |
| 同連絡先 | 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 TEL 0120-094-7777(通話料無料) |
| 上場証券取引所 | 東京証券取引所 |
| 公告の方法 | 電子公告により行う。 当社ホームページ (http://www.brhd.co.jp/koukoku/index.html)にて掲載。 (ただし、やむを得ない事由により電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。) |

表紙について

Cover



(株)ビーアールホールディングスは、おかげさまで平成28年3月29日に東京証券取引所 市場第一部に指定されました。

これを機会に、さらに一層社業の発展を図り、皆様方のご期待にお応えできるよう努力いたす所存でございますので今後とも変わらぬご支援ご鞭撻をよろしくお願ひ申し上げます。

<背景の橋>

名称：美濃関JCT高架橋(岐阜県)

施工：極東興和株式会社



株式会社 ビーアールホールディングス

広島市東区光町二丁目6番31号 TEL 082-261-2860 FAX 082-261-2861

ホームページ <http://www.brhd.co.jp/>

IR情報を当社ホームページに掲載いたしておりますので、こちらからご覧ください。

